



# あたらしい本

第264号 2026. 1. 15 発行 (こども版)



## たくさんよんでくださいね!

「オニのせつぶんたいじ」 <sup>おかだ</sup>岡田 <sup>よしたか</sup>よしたか/作 <sup>しょうかくかん</sup>小学館 (えほん 幼児向き)

<sup>ことし</sup>今年も<sup>せつぶん</sup>節分が<sup>ちか</sup>近づいてきました。<sup>あか</sup>赤オニの<sup>ふたり</sup>ふたりは<sup>なんと</sup>なんとか<sup>まめ</sup>豆まきから<sup>のが</sup>逃れようと<sup>あの手</sup>あの手この手を<sup>て</sup>尽くしますが、<sup>つ</sup>なかなか<sup>うま</sup>うまくいきません。ちょっと<sup>きよわ</sup>ドジで<sup>きよわ</sup>気弱な<sup>ふたり</sup>ふたりは、<sup>はたし</sup>はたして<sup>ぶじ</sup>無事に<sup>の</sup>乗り<sup>き</sup>切ることができるのでしょうか?

「いぬがいた」 <sup>まるやま</sup>丸山 <sup>さとし</sup>誠司/作 <sup>えほんかん</sup>絵本館 (えほん 幼児向き)

いぬがあくびをした、こっちをみた、ニヤリとした、かけだした、くぐった、とんだ、ぶつかった……。いぬと<sup>おとこ</sup>男の子の<sup>こ</sup>思いが<sup>おも</sup>けないふれあいと、<sup>あいきょう</sup>できごと。愛嬌たっぷりのいぬの<sup>ひょうじょう</sup>表情と、<sup>てんかい</sup>ほほえましい<sup>たの</sup>展開が<sup>えほん</sup>楽しい絵本。

「さいこうのおもいで」 <sup>ドリス・スーザン・スミス</sup>ドリス・スーザン・スミス/作 <sup>きさか</sup>木坂 <sup>りょう</sup>涼/訳  
<sup>こうかくしゃ</sup>好学社 (えほん 3~5歳・小初向き)

うさぎのジェレミーは、<sup>うみべ</sup>海辺に<sup>す</sup>住んでいるかわうその<sup>たず</sup>ウォルドーを訪ねます。<sup>れっしゃ</sup>列車と<sup>くるま</sup>車を<sup>の</sup>乗り<sup>つ</sup>継いで<sup>つ</sup>ようやく<sup>みなとまち</sup>着いた港町。そこから<sup>ふね</sup>ふたりは、<sup>の</sup>船に<sup>うみ</sup>乗って<sup>で</sup>海に出たり、<sup>ききゅう</sup>気球に<sup>の</sup>乗って<sup>そら</sup>空を<sup>と</sup>飛んだりして……。

「図書館のぬいぐるみかします 4 ひとりの大ぼうけん」

<sup>シンシア・ロード</sup>シンシア・ロード/作 <sup>ステファニー・グラエギン</sup>ステファニー・グラエギン/絵 <sup>ポプラ社</sup>ポプラ社

(ブック・フレンド4) (よみもの 小初・小中向き)

ぬいぐるみのひよこの<sup>としょかん</sup>ピッピは、<sup>としょかん</sup>図書館のぬいぐるみ〈ブック・フレンド〉。おかあさんは、<sup>ひ</sup>めんどりのぬいぐるみの<sup>おとこ</sup>コッコです。ある日、男の子に<sup>こ</sup>空港へ<sup>つ</sup>連れていかれた<sup>おとこ</sup>ピッピは、男の子の<sup>こ</sup>もとを<sup>はな</sup>離れ、<sup>ぼうけん</sup>ひとりで冒険に出ますが……。

## 「トイレが楽しくなるうんちのひみつ The Magic of Poop」

さいとう あずみ/文と絵 今泉 忠明/監修

創元社 (生活 小中・小上向き)

動物はどんなうんちをするの？うんちがくさいのはなぜ？トイレがない時代はどうしていたの？いいうんち・悪いうんち、トイレの話、動物たちのうんち話、うんちの雑学などを、豊富なイラストとともに紹介する。

## 「こども栄養学」 中西 明美/監修 新星出版社 (生活 小中・小上向き)

栄養素キャラクターが教えてくれる！「栄養って何？」から、食べものに含まれる栄養素と働きまでを楽しいイラストとともに解説。それぞれの栄養素をどのように食事にとり入れたらよいか、すぐ実践できる工夫なども紹介する。

## 「フェンシング部の王子さま The Prince of the Fencing Club」

石川 宏千花/作 さ・え・ら書房 (よみもの 小上・中向き)

フェンシング部に憧れ、江田学園・中等部に入学した歩羅。ところが、フェンシング部の先輩たちのノリは強烈で、とてもついていけそうにない。友人と剣道部に仮入部したが、フェンシング部には心ひかれる「王子さま」がいて……。

## 「ひとりぼっちのベア」 ハンナ・ゴールド/作 田中 奈津子/訳

静山社 (よみもの 小上向き)

母親を事故で亡くし、科学者の父親の自然科学調査に同行して、北極圏に滞在することになった11歳の少女エイプリル。白夜の夜、迷子のホッキョクグマに出会ったエイプリルは、クマを故郷の島にかえそうとするが……。

〔ウォーターストーンズ児童書賞 ブルー・ピーター賞〕

さかどしりつちゅうおうとしょかん  
坂戸市立中央図書館 TEL281-6369

※図書館流通センター「新刊全点案内」より引用